

権利擁護／虐待防止

事例検討編④

①「明らかな虐待行為」と「グレーゾーンな行為」

この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、「虐待行為とはどういうものであるのか」について考える入り口として活用していただきたい。

難易度はそれほど高くはないが、しっかり考えていくことが大切である。

研修の進め方①

まずは、次の事例を読み上げます。

事例（Aスタッフのことば）

Aスタッフは高齢者施設での介護経験が豊富で、即戦力として期待されて中途採用されました。Aスタッフ自身もそのことを十分に理解し、この施設のやり方を早く覚えようと取り組むほか、人懐っこい性格も駆使して、他のスタッフや利用者とも積極的に関わり信頼関係の構築に取り組んでいます。

Aスタッフは新しく入所してきたBさんの担当になりました。Bさんには子がいません。夫が亡くなった後はずっと一人で暮らしてきました。

Aスタッフは相談員から簡単な引き継ぎを受けた後、Bさんの居室に行き、Bさんに向き合って「Bさん、今日からよろしくお願ひしますね」と挨拶しました。そして、ベッド横の床頭台に置いてある写真立てを指さし、「この写真はBさんの息子さん？」と質問しました。そのとき、Bさんの表情が一瞬くもりましたが、そのことにAスタッフは気がつきませんでした。Bさんが「いいえ、夫です」と答えると、Aスタッフは思わず「あっ！ そうだったそうだった。お子さんがいないって聞いていました。若いからてっきり息子さんかと思っちゃった！ あはは」と言ってしまう。「早くに夫を亡くしましたので……」と話すBさんに「あー、そうだったんだ。でも、イケメンの父さんだわ」と言いました。

事例（続き）

Aスタッフは、その後も訪室のたびに写真に向かって「父さん、待っててね。これから母さんを食事に連れて行きますから」と言ったり、「父さん、母さんをレクに連れて行きます。お留守番、よろしくお願いします」と話しかけました。

またBさんに対しても「父さんがあの世で心配しないようにリハビリがんばろうね」と言ったり、「今日は一杯食べたねー、きっと父さんもあの世で喜んでるよ」と言ったりしました。

ある日、Aスタッフがいつものように写真に話しかけて、「さあ、レクに行くよー」と言うと、突然Bさんから「あなたに夫のことを父さんなんて気安く呼ばれる筋合いはない！」と大声で怒鳴られてしまいました。

研修の進め方②

次の質問を参加者に投げかけます。参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

①明らかに虐待であるであると判断できる行為は何だと思えますか？

※うまく答えが出てこない場合は、「心理的虐待はないですか？」と投げかけます。

②虐待であるかどうか判断に迷う「グレーゾーン」の行為（「不適切なケア」）は何だと思えますか？

※うまく答えが出てこない場合は「心理的虐待はないですか？」と投げかけます。

個人ワーク(10分)

Aスタッフさんはどのような虐待をした
と思いますか？

Aスタッフがしたと思われる虐待行為について、整理しま
しょう。

1) 明らかに虐待であると判断できる
行為は何だと思いますか？

2) 虐待であるかどうか判断に迷う
「グレイゾーン」の行為(「不適切なケア」)は何だと思いますか？

研修の進め方③

参加者に答えてもらったら、グループワークに入ります。

グループワークのテーマ・・・「この事例において何が問題であるのか？」

・参加者はそれぞれ自分が感じている問題点について意見を出し合い、話し合っていきます。

☆このグループワークのねらいは、虐待行為は日常業務の中で起こり得るものであるということを感じてもらうことです。

そのために、「正解は〇〇だ」ということを決めていくことではありません。

* グループワークをしている中で、話題が全く違うものへとずれていかなければ、話し合っている内容を修正する必要はありません。話し合いをしていく中で、自分たちの職場で起きうる虐待行為についての意見交換や過去にあった虐待行為についての情報交換になることが多くなると思われます。

グループワーク(20分)

3)この事例から何が問題なのか話し合ってみましょう。

研修の進め方④

- ①話し合いが終わったら、各自でワークシートに「虐待行為」と「グレーゾーン」に分けて記入してもらいます。
- ②記入してもらったら、それを一人ひとり発表してもらいます。
- ③ワークシートを回収して、全員の考え方を整理して、フィードバックして、研修は終了です。

個人ワーク(10分)

4) ワークシートに「虐待行為」と「グレーゾーン」に分けて記入しましょう

この教材を終えるにあたって

この研修には「正解」はありません。「虐待行為とはどういうものなのか」について考えてもらうことが目的だからです。

人によってとらえ方が違うことも理解できたらこの研修は成功です。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター
理事長 五十嵐教行